離散数学 第 9 回
順序と同値関係 (1)：関係

岡本 吉央
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2012 年 6 月 19 日

最終更新：2012 年 6 月 18 日　03:55

概要

今日の目標

- 関係を理解する
- 関係の性質を理解する
  - 反射性，完全性，対称性，反対称性，推移性
- 特殊な関係を理解する
  - 順序 (半順序)，全順序，同値関係

目次

6 の約数は？

問題 1

6 の約数を全部挙げよ

解答：1, 2, 3, 6

$\{a, b\}$ の部分集合は？

問題 2

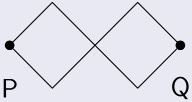
集合 $\{a, b\}$ の部分集合を全部挙げよ

解答： $\emptyset, \{a\}, \{b\}, \{a, b\}$

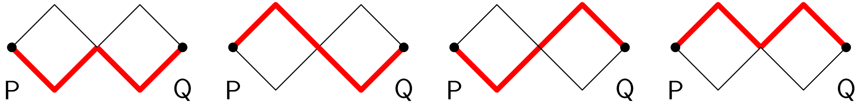
スタートからゴールまで最短で行く方法は？

問題 3

次の図の P から Q まで最短でいく方法を全部挙げよ



解答：



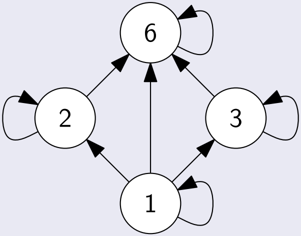
6 の約数は？ 再登場

問題 1

6 の約数を全部挙げよ

解答： 1, 2, 3, 6

「m は n の約数」のとき，m から n に矢印を引いて絵を描く



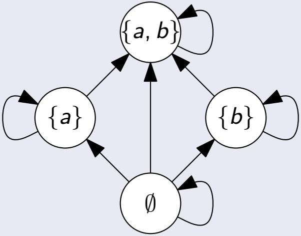
$\{a, b\}$ の部分集合は？

問題 2

集合 $\{a, b\}$ の部分集合を全部挙げよ

解答： $\emptyset, \{a\}, \{b\}, \{a, b\}$

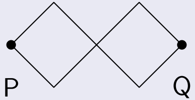
「A は B の部分集合」のとき，A から B に矢印を引いて絵を描く



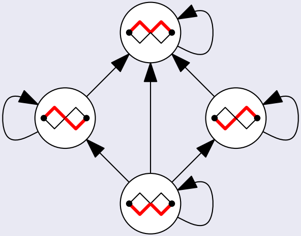
スタートからゴールまで最短で行く方法は？

問題 3

次の図の P から Q まで最短でいく方法を全部挙げよ



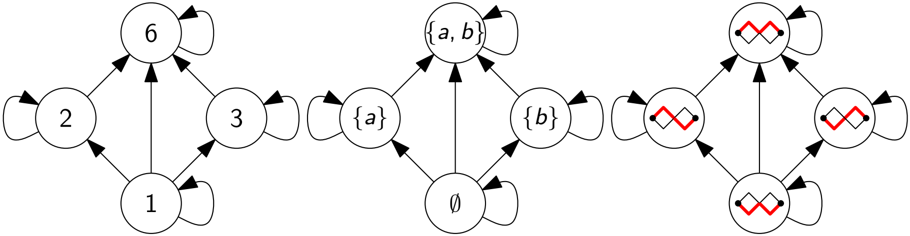
「経路 1 が経路 2 の上にいかない」とき，経路 1 から 2 に矢印を...



共通点？ なぜ？

この 3 つは「同じ形」をしている

- 「同じ形」とは何？
- なぜ同じ形をしている？



格言

抽象化，それが数学の威力の 1 つ

目次

関係とは？

集合 A

関係とは？（常識に基づく定義）

A 上の**関係**は次のように定められるもの

- 関係を表す記号「R」がある　　　　(例えば，$\leq$ や $=$ や $\subseteq$)
- 任意の $x, y \in A$ に対して
  「$x\ R\ y$」が成り立つか成り立たないか，のどちらか

注：$x\ R\ y$ が成り立っても，$y\ R\ x$ が成り立つとは限らない

例 1

例 1

- $A = \{1, 2, 3, 6\}$
- 任意の $x, y \in A$ に対して

$$x \mid y \text{ であることを } x \text{ は } y \text{ の約数である}$$

  と定義する

$1 \mid 1$	○	$2 \mid 1$	×	$3 \mid 1$	×	$6 \mid 1$	×
$1 \mid 2$	○	$2 \mid 2$	○	$3 \mid 2$	×	$6 \mid 2$	×
$1 \mid 3$	○	$2 \mid 3$	×	$3 \mid 3$	○	$6 \mid 3$	×
$1 \mid 6$	○	$2 \mid 6$	○	$3 \mid 6$	○	$6 \mid 6$	○

関係の表現法 (1)：関数

関数としての関係の表現

A 上の関係 R を関数 $A^2 \to \{ ○, × \}$,

$$(x, y) \mapsto \begin{cases} ○ & (x \mathrel{R} y \text{ のとき}) \\ × & (x \mathrel{R} y \text{ ではないとき}) \end{cases}$$

で表現する

例 1 の場合

- $(1, 1) \mapsto$ ○
- $(1, 2) \mapsto$ ○
- $(1, 3) \mapsto$ ○
- $(1, 6) \mapsto$ ○
- $(2, 1) \mapsto$ ×
- $(2, 2) \mapsto$ ○
- $(2, 3) \mapsto$ ×
- $(2, 6) \mapsto$ ○
- $(3, 1) \mapsto$ ×
- $(3, 2) \mapsto$ ×
- $(3, 3) \mapsto$ ○
- $(3, 6) \mapsto$ ○
- $(6, 1) \mapsto$ ×
- $(6, 2) \mapsto$ ×
- $(6, 3) \mapsto$ ×
- $(6, 6) \mapsto$ ○

関係の表現法 (2)：集合

集合としての関係の表現

A 上の関係 R を集合

$$\{(x, y) \mid x \in A \text{ かつ } y \in A \text{ かつ } x\,R\,y\}$$

で表現する

例 1 の場合

$$\{(1,1),(1,2),(1,3),(1,6),(2,2),(2,6),(3,3),(3,6),(6,6)\}$$

関係の表現法 (3)：グラフ

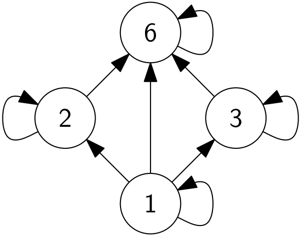
集合としての関係の表現

A 上の関係 R を

- 頂点集合を A として，
- $x\,R\,y$ であるとき，そのときに限り $x \to y$ という矢印を引く

グラフで表現する

例 1 の場合



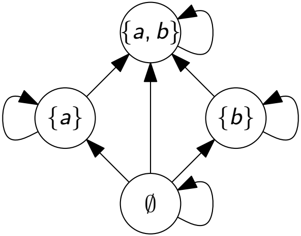
例 2

例 2

- $A = \{\emptyset, \{a\}, \{b\}, \{a, b\}\}$
- 任意の $X, Y \in A$ に対して

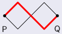
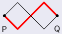
$$X \subseteq Y \text{ であることを } X \text{ は } Y \text{ の部分集合である}$$

と定義する



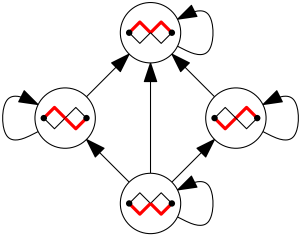
例 3

例 3

- $A = \{$ , , ,  $\}$
- **任意の** $X, Y \in A$ **に対して**

$X \preceq Y$ **であることを** X **は** Y **の上に来ない**

と定義する



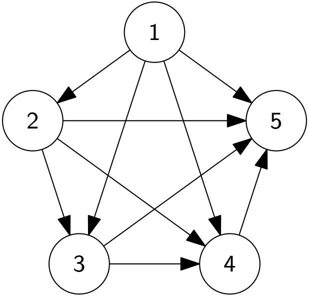
例 4

例 4

- $A = \{1, 2, 3, 4, 5\}$
- **任意の** $x, y \in A$ **に対して**

$$x < y \text{ であることを } x \text{ は } y \text{ より小さい}$$

と定義する



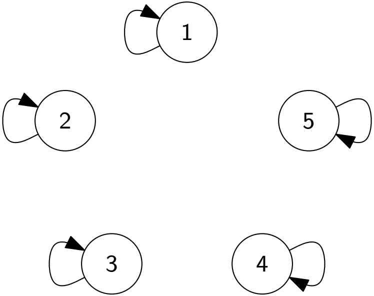
例 5

例 5

- $A = \{1, 2, 3, 4, 5\}$
- **任意の** $x, y \in A$ **に対して**

$$x = y \text{ であることを } x \text{ は } y \text{ と等しい}$$

と定義する



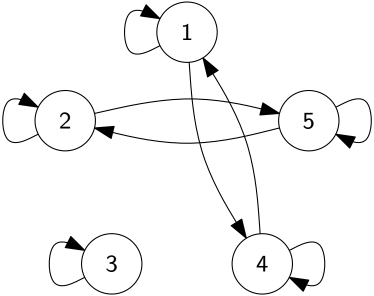
例 6

例 6

- $A = \{1, 2, 3, 4, 5\}$
- 任意の $x, y \in A$ に対して

$$x \equiv_3 y \text{ であることを } x \equiv y \pmod 3$$

と定義する



補足：合同な整数

合同な整数

0 以上の整数 m, n と 1 以上の整数 p を考える

- $m - n$ が p で割り切れるとき，すなわち，
  ある整数 q が存在して
  $$m - n = pq$$
  と書けるとき，$m \equiv n \pmod{p}$ と表記する
- $m \equiv n \pmod{p}$ であるとき
  「m と n は p を法として合同である」という

例：

- 5 と 11 は 3 を法として合同である
  - $\because 5 - 11 = -6 = -2 \cdot 3$
- 15869 と 6832 は 1291 を法として合同である
  - $\because 15869 - 6832 = 9037 = 7 \cdot 1291$

目次

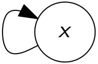
反射性

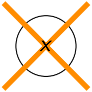
集合 A と A 上の関係 R

反射性とは？

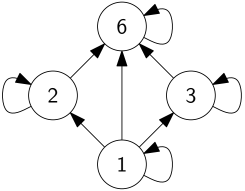
R が**反射性**を持つとは，次を満たすこと

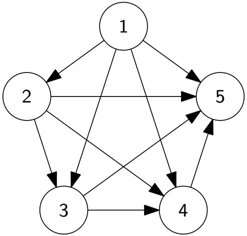
任意の $x \in A$ に対して $x\,R\,x$

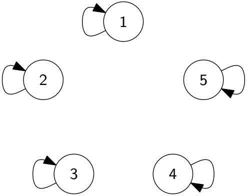


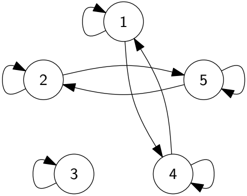


反射性を持つのはどれ？

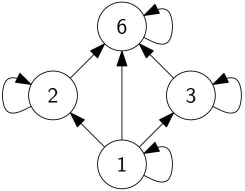




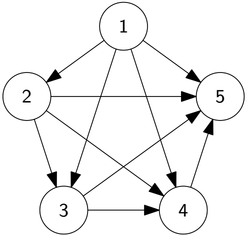




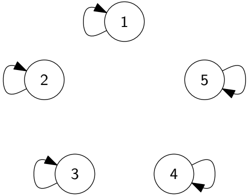
反射性を持つのはどれ？



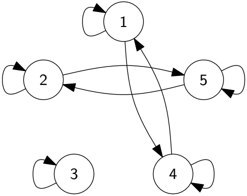
持つ



持たない



持つ



持つ

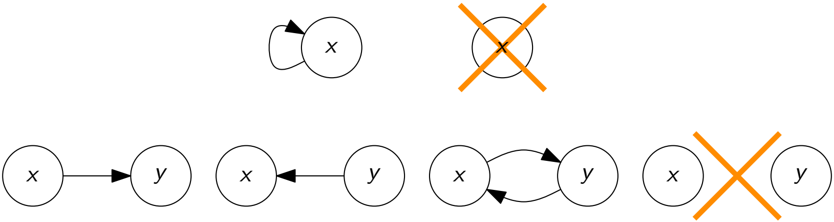
完全性

集合 A と A 上の関係 R

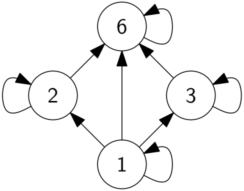
完全性とは？

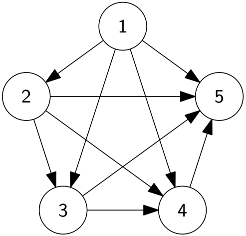
R が**完全性**を持つとは，次を満たすこと

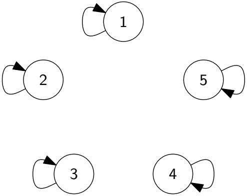
$$\text{任意の } x, y \in A \text{ に対して } x \, R \, y \text{ または } y \, R \, x$$

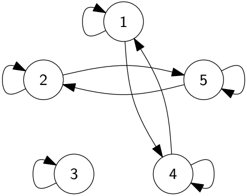


完全性を持つのはどれ？

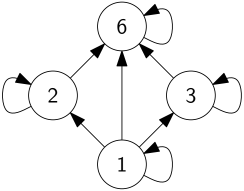




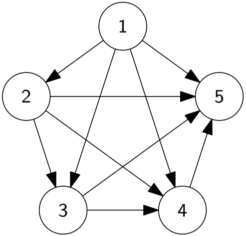




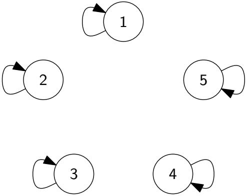
完全性を持つのはどれ？



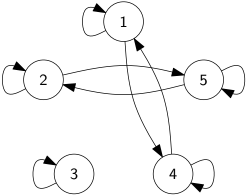
持たない



持たない



持たない



持たない

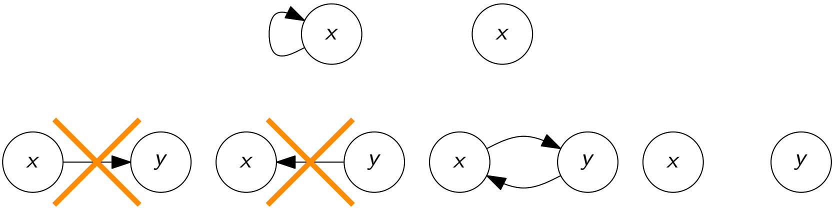
対称性

集合 A と A 上の関係 R

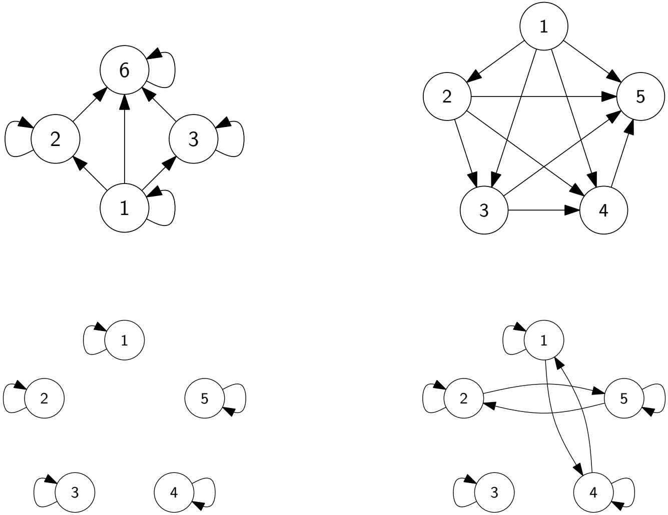
対称性とは？

R が**対称性**を持つとは，次を満たすこと

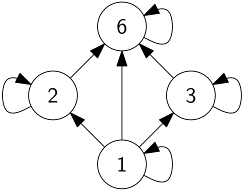
$$\text{任意の } x, y \in A \text{ に対して } x\,R\,y \text{ ならば } y\,R\,x$$



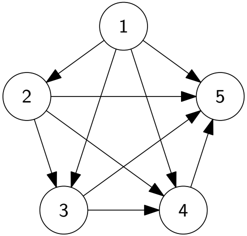
対称性を持つのはどれ？



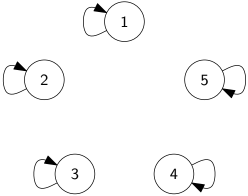
対称性を持つのはどれ？



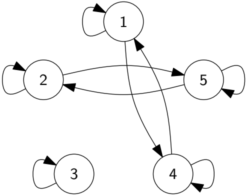
持たない



持たない



持つ



持つ

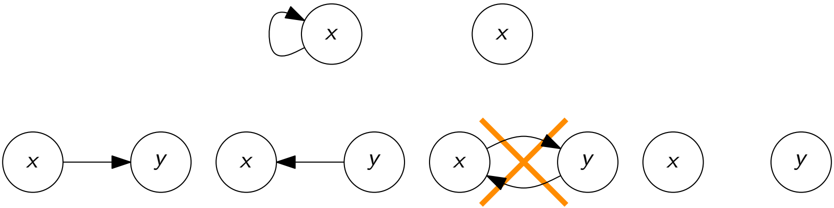
反対称性

集合 A と A 上の関係 R

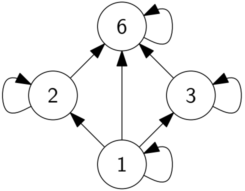
反対称性とは？

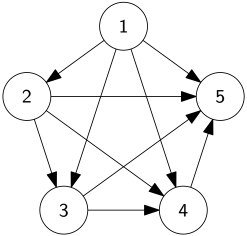
R が**反対称性**を持つとは，次を満たすこと

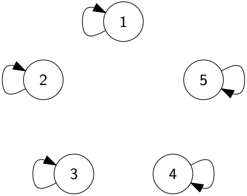
$$\text{任意の } x, y \in A \text{ に対して } x \, R \, y \text{ かつ } y \, R \, x \text{ ならば } x = y$$

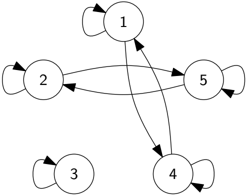


反対称性を持つのはどれ？

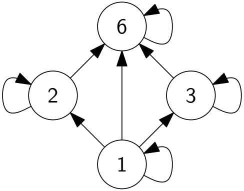




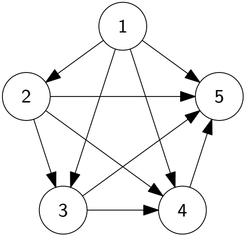




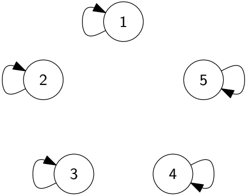
反対称性を持つのはどれ？



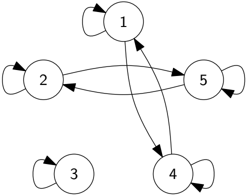
持つ



持つ



持つ



持たない

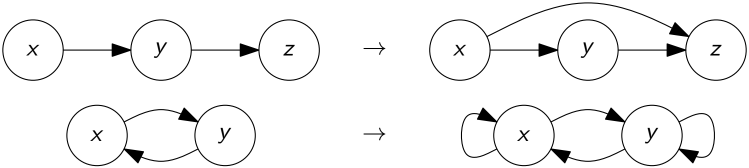
推移性

集合 A と A 上の関係 R

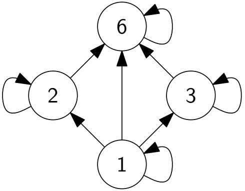
推移性とは？

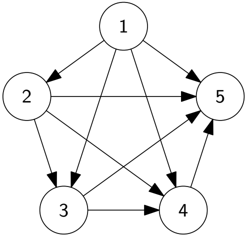
R が**推移性**を持つとは，次を満たすこと

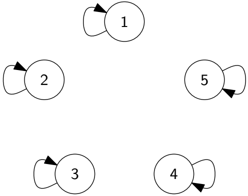
$$\text{任意の } x, y, z \in A \text{ に対して } x \mathrel{R} y \text{ かつ } y \mathrel{R} z \text{ ならば } x \mathrel{R} z$$

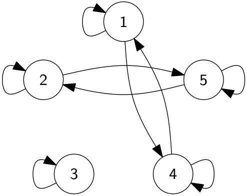


推移性を持つのはどれ？

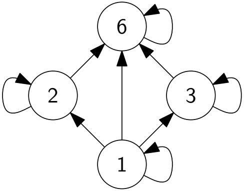




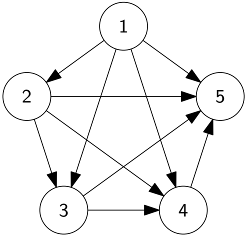




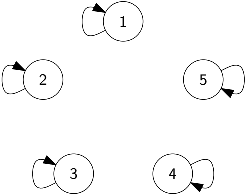
推移性を持つのはどれ？



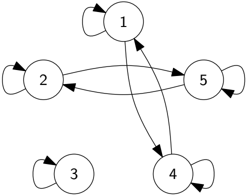
持つ



持つ



持つ



持つ

目次

半順序

集合 A と A 上の関係 R

半順序とは？

R が**半順序**であるとは，次を満たすこと

- R は反射性を持つ
- R は反対称性を持つ
- R は推移性を持つ

例 1〜6 の中で，例 1，2，3 は半順序

代表的な半順序 (1)

代表的な半順序 (1)：実数の大小関係

$\mathbb{R}$ 上の関係 $\leq$ を，任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して

$x \leq y$ であることは x が y 以下であること

として定義する

代表的な半順序 (1)

代表的な半順序 (1)：実数の大小関係

$\mathbb{R}$ 上の関係 $\leq$ を，任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して

$$x \leq y \text{ であることは } x \text{ が } y \text{ 以下であること}$$

として定義する

反射性：確認

任意の $x \in \mathbb{R}$ に対して，$x \leq x$

反対称性：確認

任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して，$x \leq y$ かつ $y \leq x$ ならば $x = y$

推移性：確認

任意の $x, y, z \in \mathbb{R}$ に対して，$x \leq y$ かつ $y \leq z$ ならば $x \leq z$

代表的な半順序 (2)

代表的な半順序 (2)：集合の包含関係

任意の集合 A の冪集合 2^A 上の関係 $\subseteq$ を，任意の $X, Y \in 2^A$ に対して

$X \subseteq Y$ であることは X が Y の部分集合であること

として定義する

代表的な半順序 (2)

代表的な半順序 (2)：集合の包含関係

任意の集合 A の冪集合 2^A 上の関係 $\subseteq$ を，任意の $X, Y \in 2^A$ に対して

$X \subseteq Y$ であることは X が Y の部分集合であること

として定義する

反射性：確認 (演習問題 5.10 参照)

任意の $X \in 2^A$ に対して，$X \subseteq X$

反対称性：確認

任意の $X, Y \in 2^A$ に対して，$X \subseteq Y$ かつ $Y \subseteq X$ ならば $X = Y$

推移性：確認 (演習問題 5.11 参照)

任意の $X, Y, Z \in 2^A$ に対して，$X \subseteq Y$ かつ $Y \subseteq Z$ ならば $X \subseteq Z$

代表的な半順序 (3)

代表的な半順序 (3)：整数の整除関係

1 以上の整数全体の集合 $\mathbb{Z}_+$ 上の関係 $|$ を，任意の $a, b \in \mathbb{Z}_+$ に対して

$$a \mid b \text{ であることは } a \text{ が } b \text{ の約数であること}$$

として定義する

代表的な半順序 (3)

代表的な半順序 (3)：整数の整除関係

1 以上の整数全体の集合 $\mathbb{Z}_+$ 上の関係 $|$ を，任意の $a, b \in \mathbb{Z}_+$ に対して

$a \mid b$ であることは a が b の約数であること

として定義する

反射性：確認

任意の $a \in \mathbb{Z}_+$ に対して，$a \mid a$

反対称性：確認

任意の $a, b \in \mathbb{Z}_+$ に対して，$a \mid b$ かつ $b \mid a$ ならば $a = b$

推移性：確認

任意の $a, b, c \in \mathbb{Z}_+$ に対して，$a \mid b$ かつ $b \mid c$ ならば $a \mid c$

代表的な半順序 (3)：反対称性の証明

- $a, b \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid a$ を仮定する．

- $$a = b$$ $\square$

代表的な半順序 (3)：反対称性の証明

- $a, b \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid a$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $a = b$ □

代表的な半順序 (3)：反対称性の証明

- $a, b \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid a$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid a$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$a = bq$
- $a = b$ □

代表的な半順序 (3)：反対称性の証明

- $a, b \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid a$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid a$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$a = bq$
- したがって，$b = ap = (bq)p = bqp$
- $a = b$ $\square$

代表的な半順序 (3)：反対称性の証明

- $a, b \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid a$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid a$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$a = bq$
- したがって，$b = ap = (bq)p = bqp$
- $p, q \in \mathbb{Z}_+$ なので，$p = 1, q = 1$
- $$a = b$$ □

代表的な半順序 (3)：反対称性の証明

- $a, b \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid a$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid a$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$a = bq$
- したがって，$b = ap = (bq)p = bqp$
- $p, q \in \mathbb{Z}_+$ なので，$p = 1, q = 1$
- $a = bq$ なので，$a = b$ $\square$

代表的な半順序 (3)：推移性の証明

- $a, b, c \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid c$ を仮定する．

- したがって，$a|c$． $\square$

代表的な半順序 (3)：推移性の証明

- $a, b, c \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid c$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid c$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = bq$

- したがって，ある $r \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = ar$
- したがって，$a|c$． $\square$

代表的な半順序 (3)：推移性の証明

- $a, b, c \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid c$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid c$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = bq$
- したがって，$c = bq = (ap)q = a(pq)$

- したがって，ある $r \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = ar$
- したがって，$a|c$． □

代表的な半順序 (3)：推移性の証明

- $a, b, c \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid c$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid c$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = bq$
- したがって，$c = bq = (ap)q = a(pq)$
- $p, q \in \mathbb{Z}_+$ なので，$pq \in \mathbb{Z}_+$

- したがって，ある $r \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = ar$
- したがって，$a|c$． □

代表的な半順序 (3)：推移性の証明

- $a, b, c \in \mathbb{Z}_+$ を任意に選ぶ．
- $a \mid b$ と $b \mid c$ を仮定する．
- $a \mid b$ から，ある $p \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$b = ap$
- $b \mid c$ から，ある $q \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = bq$
- したがって，$c = bq = (ap)q = a(pq)$
- $p, q \in \mathbb{Z}_+$ なので，$pq \in \mathbb{Z}_+$
- $r' = pq$ とすると，$r' \in \mathbb{Z}_+$ かつ $c = ar'$
- したがって，ある $r \in \mathbb{Z}_+$ が存在して，$c = ar$
- したがって，$a|c$． $\square$

全順序

集合 A と A 上の関係 R

全順序とは？

R が**全順序**であるとは，次を満たすこと

- R は反射性を持つ
- R は反対称性を持つ
- R は推移性を持つ
- R は完全性を持つ

例 1〜6 の中に，全順序はない

- 注：単に「順序」と言ったら，普通は「半順序」のことを指す
- 注：全順序のことを**線形順序**と呼ぶこともある

代表的な全順序

代表的な全順序：実数の大小関係

$\mathbb{R}$ 上の関係 $\leq$ を，任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して

$$x \leq y \text{ であることは } x \text{ が } y \text{ 以下であること}$$

として定義する

反射性，反対称性，推移性は既に確認した

完全性：確認

任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して，$x \leq y$ か $y \leq x$

同値関係

集合 A と A 上の関係 R

同値関係とは？

R が**同値関係**であるとは，次を満たすこと

- R は反射性を持つ
- R は対称性を持つ
- R は推移性を持つ

例 1〜6 の中で，同値関係は例 5，6

代表的な同値関係 (1)

代表的な同値関係 (1)：実数の相等関係

$\mathbb{R}$ 上の関係 $=$ を，任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して

$$x = y \text{ であることは } x \text{ が } y \text{ と等しいこと}$$

として定義する

代表的な同値関係 (1)

代表的な同値関係 (1)：実数の相等関係

$\mathbb{R}$ 上の関係 $=$ を，任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して

$$x = y \text{ であることは } x \text{ が } y \text{ と等しいこと}$$

として定義する

反射性：確認

任意の $x \in \mathbb{R}$ に対して，$x = x$

対称性：確認

任意の $x, y \in \mathbb{R}$ に対して，$x = y$ ならば $y = x$

推移性：確認

任意の $x, y, z \in \mathbb{R}$ に対して，$x = y$ かつ $y = z$ ならば $x = z$

代表的な同値関係 (2)

代表的な同値関係 (2)：整数の合同関係

1 以上の任意の整数 p に対して，
0 以上の整数全体の集合 $\mathbb{N}$ 上の関係 $\equiv_p$ を，任意の $m, n \in \mathbb{N}$ に対して

$$m \equiv_p n \text{ であることは } m \equiv n \pmod{p} \text{ が成り立つこと}$$

として定義する

代表的な同値関係 (2)

代表的な同値関係 (2)：整数の合同関係

1 以上の任意の整数 p に対して，
0 以上の整数全体の集合 $\mathbb{N}$ 上の関係 $\equiv_p$ を，任意の $m, n \in \mathbb{N}$ に対して

$$m \equiv_p n \text{ であることは } m \equiv n \pmod{p} \text{ が成り立つこと}$$

として定義する

反射性：確認

任意の $n \in \mathbb{N}$ に対して，$n \equiv_p n$

対称性：確認

任意の $m, n \in \mathbb{N}$ に対して，$m \equiv_p n$ ならば $n \equiv_p m$

推移性：確認

任意の $\ell, m, n \in \mathbb{N}$ に対して，$\ell \equiv_p m$ かつ $m \equiv_p n$ ならば $\ell \equiv_p n$

代表的な同値関係 (2)：反射性の証明

- 任意に $n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- このとき，$n - n = 0 = p \cdot 0$
- したがって，$n \equiv n \pmod{p}$ □

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：対称性の証明

- 任意に $m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する
- したがって，$n \equiv m \pmod{p}$ $\square$

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：対称性の証明

- 任意に $m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する
- このとき，ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$
- したがって，$n \equiv m \pmod{p}$ $\square$

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：対称性の証明

- 任意に $m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する
- このとき，ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$
- したがって，$n - m = p \cdot (-q)$
- したがって，$n \equiv m \pmod{p}$ $\square$

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：推移性の証明

- 任意に $\ell, m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $\ell \equiv m \pmod{p}$ および $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する

- したがって，$\ell \equiv n \pmod{p}$ $\square$

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：推移性の証明

- 任意に $\ell, m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $\ell \equiv m \pmod{p}$ および $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する
- $\ell \equiv m \pmod{p}$ から，ある $q_1 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$\ell - m = pq_1$

- したがって，$\ell \equiv n \pmod{p}$ □

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：推移性の証明

- 任意に $\ell, m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $\ell \equiv m \pmod{p}$ および $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する
- $\ell \equiv m \pmod{p}$ から，ある $q_1 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$\ell - m = pq_1$
- $m \equiv n \pmod{p}$ から，ある $q_2 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq_2$

- したがって，$\ell \equiv n \pmod{p}$ $\square$

$m \equiv n \pmod{p}$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：推移性の証明

- 任意に $\ell, m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $\ell \equiv m \pmod p$ および $m \equiv n \pmod p$ と仮定する
- $\ell \equiv m \pmod p$ から，ある $q_1 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$\ell - m = pq_1$
- $m \equiv n \pmod p$ から，ある $q_2 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq_2$
- したがって，$\ell - n = (\ell - m) + (m - n) = pq_1 + pq_2 = p(q_1 + q_2)$

- したがって，$\ell \equiv n \pmod p$ □

$m \equiv n \pmod p$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

代表的な同値関係 (2)：推移性の証明

- 任意に $\ell, m, n \in \mathbb{N}$ を選ぶ
- $\ell \equiv m \pmod p$ および $m \equiv n \pmod p$ と仮定する
- $\ell \equiv m \pmod p$ から，ある $q_1 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$\ell - m = pq_1$
- $m \equiv n \pmod p$ から，ある $q_2 \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq_2$
- したがって，$\ell - n = (\ell - m) + (m - n) = pq_1 + pq_2 = p(q_1 + q_2)$
- $q_1, q_2 \in \mathbb{Z}$ より，$q_1 + q_2 \in \mathbb{Z}$
- したがって，$\ell \equiv n \pmod p$ $\square$

$m \equiv n \pmod p$ の定義 (再掲)

ある $q \in \mathbb{Z}$ が存在して，$m - n = pq$

目次

今日のまとめ

関係とそれにまつわる概念

- 関係を理解する
- 関係の性質を理解する
  - 反射性，完全性，対称性，反対称性，推移性
- 特殊な関係を理解する
  - 順序 (半順序)，全順序，同値関係

- 登場した「関係」は「2 つのものの間の関係」だけだった
- 3 つのものの間の関係は？
- それ以上のものの間の関係は？

n 項関係とは？

n 項関係とは？（常識に基づく定義）

A 上の n **項関係**は次のように定められるもの

- 関係を表す関数「$A^n \to \{ \bigcirc, \times \}$」がある
- 任意の $(x_1, \ldots, x_n) \in A^n$ に対して
  その関数の値が「○」か「×」のどちらかに決まる

この一般化の下で，講義で扱った「関係」は「**二項関係**」と呼ばれる．

目次